

健康アプリ導入自治体の状況について			
自治体名	鎌倉市	葛飾区	小田原市
事業名	古都をトコトコ鎌倉健康歩（ポ） イント	モンチャレ モンチッチと歩こう！かつしかActivチャレンジ	小田原市健幸ポイント事業
委託業者	DeSCヘルスケア株式会社 （アプリ名：KENKOM）	日本電気株式会社（NEC）、（アプリ名：「WoLN」）	株式会社グッピーズ（アプリ名：グッピーヘルスケア）
人口	171,272人（令和6年1月）	467,000人（令和6年1月）	186,326人（令和6年1月）
高齢化率	30.7%（令和6年1月）	24.3%（令和5年）	30.6%（令和6年1月）
業務委託期間	【第1期】令和3年3月24日～令和6年3月31日（複数年契約） 【第2期】令和5年4月1日～令和9年3月31日（複数年契約）	令和6年8月1日から令和10年3月31日まで	実証実験期間：平成31年4月1日から令和4年3月31日まで3年間 事業正式開始：令和4年4月1日から令和7年3月31日まで3年間（3年間債務負担行為）
リリース	令和3年6月～	令和6年10月1日～	実証実験：平成31年4月1日から（事業正式開始：令和4年4月1日から）
利用方法	スマホにアプリを入れて持ち歩いたり体重等を入力することでポイントが付与され、貯まったポイントを電子ギフトに交換できる。	スマホにアプリを入れて持ち歩いたり体重等を入力することでポイントが付与され、貯まったポイントを電子ギフトに交換できる。	スマホにアプリを入れて持ち歩いたり体重等を入力することでポイントが付与され、1,000ポイント／月以上獲得すると、インセンティブの抽選権を獲得でき、抽選でデジタルギフト券や地場産品が当たる。
インセンティブ	・アプリ内で健康への取り組み等に対してポイントを付与。 ・ポイント付与条件：5,000歩/日で2P、8,000/日で+2P、体重入力で1P、行動メニュー（目標）達成で1P ・インセンティブはすべてデジタルギフト（Amazonギフト、nanacoギフト、QUOカードPayなど）。ポイント1P＝1円として、貯めたポイントは100ポイントから交換可能。 ＜参考＞R4のインセンティブ 金額：162万（交換件数：3,730件程度）	・アプリ内で健康への取り組み等に対してポイントを付与。 ・地域通貨のかつしかPayと連携し1ポイント1円に交換可能。 ・ポイント付与条件として、区内のスポーツクラブやスパ利用、直売所での地場野菜の購入、乳幼児健診や育児学級への参加等も含まれる。	アプリ内で健康への取り組み等に対してポイントを付与。 ・ポイント付与条件：起動、体重記録、体温記録、血圧記録、2,000歩/日、5,000歩/日、8,000/日で1それぞれ1日10P、市指定のイベント参加で10P、健康診断・人間ドック情報の入力で300P ・1,000P／月以上獲得すると、インセンティブの抽選権を獲得でき、毎月抽選でデジタルギフト券（Amazonギフト、QUOカードPay、PayPayから選択可能）1,000円分20名や地場産品が10名に当たる。
対象	20歳以上の市民	葛飾区内在住・在勤・在学の18歳以上の方	市内在住のかた、スマートフォンを所有し、アプリケーションをダウンロードした方。
登録者数	6,298人（令和6年12月末）うち国保加入者の割合は30%程度 ・年代別構成：20代3.9%、30代10.5%、40代19.0%、50代26.4%、60代21.9%、70代以上18.3%	18,000人（令和7年2月末時点、5か月）	4,869人（令和7年3月末時点） ・年代別構成：20代6%、30代16%、40代20%、50代23%、60代20%、70代以上11%、80代以上2.6%
ターゲット層	スタート時、働き盛り20～50代に設定。 現在は広く周知。登録者のうち50代以上が60%以上を占める。	30～50代。登録者のうち30～50代が70%を占める	市民 全世代
起動率	月（MAU）：53%	月（MAU）：70%、（日：30%、週：40%）	月（MAU）：28.6%
事業の効果測定・KPI	・登録者数 ・歩数の増加（登録前と登録後） ・医療費抑制効果の試算（個人の1日あたりの歩数増加量を理論上の計算式にあてはめて算出） ※計算式：個人の医療費抑制効果＝1日あたりの歩数増加量(歩/日)×歩数原単価(円/日/歩)×効果測定期間日数(日) ・成果報酬は、医療費抑制効果×報酬割合(17.5%)（R4決算では、1,853千円） ・成果報酬算定方法については、山梨県の取組を参考にした。 ・成果の検証について、大学等研究機関との監修等は受けていない。	・登録者6か月で5,000人の設定→18,000人達成 ・歩数の増加、利用前後のBMIの減少、アンケートでの行動変容	事業者作成のデータと登録者へのアンケート調査による下記の指標による評価 ・登録者数（起動率） ・歩数の変化 ・利用者の満足度 ・健康意識の変化
目標値、達成度、成果（導入前との比較等）	○目標値、達成度（登録者数） ・登録者数：令和5年4,623人（毎年1,500人ずつ増やす目標、令和5年目標値4,500人）、達成率102.7% ○成果について ・R3年度：医療費抑制効果 1,155,006円、（算定対象者数）130名、（成果報酬額）202,126円（税抜） ・R4年度：医療費抑制効果 1,217,648円、（算定対象者数）104名、（成果報酬額）234,397円（税抜） ・R5年度：医療費抑制効果 377,681円、（成果報酬額）66,094円（税抜）	・登録者の目標は達成【6か月で5,000人目標→18,000人達成】 ・歩数の増加、利用前後のBMIの減少、アンケートでの行動変容 ・健康への効果は、成果としては得られていない。 ※医療費削減効果：現状は分析できていない。 R7年度以降、介入群と非介入群でのデータの比較等を予定している。	・登録者数：4,869人※第2期小田原市健康増進計画における目標登録者数（令和9年度）10,000人に対し達成率48.7% ・アプリ起動率（1か月に1回以上アプリを稼働する割合）：28.6% ・インセンティブ達成者（1000ポイント）537人（達成率 38.6%） ・登録者全体の平均歩数：1,832歩増加（平成31年4月 5,378歩から令和7年3月 7,210歩） ・血圧記録回数：4,669回増加（令和4年4月 2,595回/月から令和7年3月 7,254回/月） ・血圧を記録するユーザー数:122人増加（令和4年9月238人から令和7年3月360人） ・アンケート調査にて事業参加後の変化として、歩数の増加と回答した者：65% ・アンケート調査にて事業参加後、「歩くことを意識するようになった」と回答した者：91%
データの活用	・国保健診データを市から提供しているため、ユーザー自身が紐づけると健診データをアプリ上で閲覧可能。 ・登録者や属性、歩数のデータ提供はあるが、利用者の健康状態等の変化は市で把握しておらず、業者もまとめていない。データは成果報酬の算定以外で活用されていないのが現状。 ・医療費削減効果については、個人の1日あたりの歩数増加量を理論上の計算式にあてはめ、業者が試算。実際の国保加入者の医療費削減効果等は算出することは難しい。	登録者のアプリ登録データの分析は業者へ委託しているが、事業の成果としての健康への効果や医療費削減効果は示せていない。成果を示すためにはアプリ内で得たデータのみの分析では不十分と認識。	アプリを利用するにあたり性別、年齢、在住の地域以外の個人情報取得しておらず、個人を特定した健康データの変化等、アプリ利用による健康への効果に関する分析ができない。
課題	・高齢者からは登録が難しいとの意見が多く、電話・窓口等の市民対応に時間を要する。 ・登録者数増に比例して継続率は低下する。継続率UPさせる施策が課題。 ・ターゲット層は働き世代だが、実際には高齢者が多い。 ・現状の成果報酬算出方法では（医療費抑制効果）にインパクトがない ・若者世代にとって魅力のある景品となっていない。 （PayPay等の汎用性のある電子マネーなどがない） ・登録者数の目標は達成しているとはいえ、全人口でみれば3%程度。市民の健康増進への寄与という観点では課題が残る。	・事業としては順調だが、今後成果を示すための分析に課題感。 ・利用者の歩数の増加、BMIの減少、アンケートでの行動変容等。 現状の分析では不十分と議会や庁内からも意見が出ている。	アプリの登録者数は増加傾向にあったため、これまで運動習慣のなかった方の取り込みに対し一定の効果があつたのではないかと考えている。しかしながら、このアプリを利用するにあたり、個人情報を取得していないため、現時点で個人を特定し健康増進につなげるといった考えではなく、あくまでも運動習慣定着に向けたきっかけづくりとしていたため、効果が見えにくいことが課題となっている。